総合教育センターだより

街路樹

発行第　１８０　号
令和６年　２月２７日（火）
いわき市総合教育センター
いわき市平字堂根町１－４
０２４６（２２）３７０５

「新たな教師の学びの姿」を目指して

現在、令和の日本型教育における「新たな教師の学びの姿」を目指し、研修観の転換が求められています。『令和４年「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について（答申）』においても、私たち教師の学びは、児童生徒の学びと「相似形」であると述べられています。

研修調査室では、先生方の「主体的・対話的で深い学び」に寄与できるよう、以下の内容等を含め、研修講座の見直しを図りました。

１　基本研修の精選と改善

初任者研修の内容を重点化・精選化を図り、大幅に見直します。

【初任者研修精選の概要】

〇　校内における研修時間　120時間→100時間

２　各種の指導力の向上を図る専門研修の充実

これまでの授業力向上講座を「授業改善講座」「授業実践講座」「授業深化講座」とし、講義と演習を効果的に取り入れながら協働的な学びの充実を進めます。

また、専門的な知見を深めるため、生徒指導研修、特別支援教育や情報教育研修に係る講座を一層充実させていきます。一例として、

【「学級経営講座」の新設】

〇　「ほめ言葉のシャワー」で有名な菊池省三先生をお呼びします。

３　調査研究委員会の活動の充実

第９期の初年度となるため、新たなテーマを設定し、実践研究を進めていきます。

その他の内容や詳細については、令和６年度の「研修の手引き」や「研修計画」をご覧ください。

研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励などの機会を生かし、ぜひ、積極的に研修に参加していただきたいと思います。

子どもと社会のウェルビーイングに向けて

教育支援室では、今年度、特別支援教育アドバイザーを２名に増員し、教育相談、不登校対策、家庭支援、特別支援教育の４つの業務について充実を図ってきました。社会・経済情勢の変化、医療的ケアや教育的ニーズの高まりなどにより、相談や支援の内容の多様化、深刻化が進んでおり、引き続き支援機能の充実が求められることが予想されます。そのため、令和６年度の重点を次の３点とし、支援機能の一層の充実に努めます。

１　相談・支援体制の構築と充実

学校や家庭における多様な支援ニーズは、通常の学級在籍の児童生徒においても高まっています。指導主事や特別支援教育アドバイザーによる学校体制整備支援に加え、スクールカウンセラーによる相談や、スクールソーシャルワーカーによる関係機関との連携により、児童生徒や保護者が安心して生活を送り、明るい未来が見通せるよう、主訴に応じた相談支援体制の充実を図ります。

２　特別支援教育に関わる人材の育成

市内の特別支援学級に在籍する児童生徒は1000名を超え、今後なお増える傾向にあり、毎年40名以上の教員が初めて特別支援学級を担任する状況になっています。そのため、障がい特性を知り、本人及び保護者の気持ちに寄り添った指導・支援を行えるよう、担当教員や特別支援教育支援員への研修、サポート訪問、人材育成プログラム会議の活用充実などにより、様々な年代において人材の育成を推進します。

３　地域とのつながりを生かした支援

本市は、各地域に様々なサポートリソースが存在します。一方で、支援の多様さや困難さから、多職種連携によるチームづくりや課題解決が必要不可欠となっています。課題に応じたチーム編成をするとともに、児童生徒のウェルビーイングを支え、生き生きと地域で生活できるよう、地域に根ざした連携を模索していきます。

令和５年度の研修講座より

令和5年度は、基本研修、職能研修Ⅰ・Ⅱ、専門研修、その他の研修を合わせて190の研修・講座を開設し、延べ6,590名の先生方に参加いただきました。研修後の先生方の感想からは、充実した研修だったことが多く伺えました。

以下は、主な研修の感想になります。

【生徒指導主事研修より】

子どもたちの多様性を踏まえた上で、子どもたちの自己肯定感を高めるための指導はどうあるべきかを考えながら指導していきたい。

【特別支援学級等新任担当教員研修②より】

3つの実践発表を聞いて、色々試したい部分はあるが、まずは目の前の子どもたちの環境を整えることや笑顔を絶やさない学級づくりから今後も続けていきたいと思った。

【放射線・防災教育研修より】

震災を経験していない子どもたちに対して、いわき震災伝承みらい館のように当時の状況が残っている建物、資料を見せる機会をぜひ設定していきたいと思った。

【初任者研修〈授業研修④〉より】

今後も続けていくべきこと、来年度さらにがんばることが明確になった。また、1年間を振り返ると、自分が大きく成長することができた。初任研で学んだことを生かして今後もがんばっていきたい。

【ICTスキルアップセミナー⑤より】

生成AIが教育現場にどのように活用できるのか、また、実際に動かしたことで生成AIのすごさを実感できた。もう一度ガイドラインに目を通して実際に動かしてみようと思った。

来年度も研修者が「受講してよかった」「明日から実践してみよう」という研修講座を企画・運営していきます。積極的な受講をよろしくお願いいたします。